

## 平成27年第20回福岡県教育委員会会議（定例会）会議録

### 1 開催日時

平成27年11月12日（木）14時00分から14時43分まで

### 2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

### 3 出席委員

奥田竜子、清家渉、久保田誠二、宮本美代子、住吉徳彦、城戸秀明（教育長）

### 4 欠席委員

なし

### 5 出席事務局職員

理事 友野晃、総務部長 川添弘人、教育企画部長 吉田法稔、  
教育振興部長 辰田一郎、総務課長 木原茂、高校教育課長 中島良博、  
義務教育課長 相原康人、義務教育課主任指導主事 奥浩幸

### 6 傍聴者等数

1名

### 7 会議

14時00分、奥田委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

非公開の発議なく全て公開と決定された。

#### （1）報告

- ・生徒指導上の諸問題の現状について

文部科学省が実施した「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の平成26年度分の結果について、暴力行為の発生状況と不登校の状況については、9月17日の教育委員会会議において報告していたが、今回、再調査が行われていた「いじめの認知状況」の結果が公表されたことに伴い、相原義務教育課長から公立小・中学校の現状について、また、中島高校教育課長から県立高等学校の現状について、それぞれ説明があった。

具体的には、平成26年度の公立小・中学校と県立高等学校の「いじめ

の認知状況」について、再調査に当たっての文部科学省の方針や、認知件数・認知学校数等について平成25年度や全国平均との比較等について説明があった。

次いで審議が行われ、宮本委員から、認知件数の把握方法について質問があった。

これに対して、相原義務教育課長から、公立小・中学校においては、アンケート調査等に基づき、その範囲内での生徒や保護者からの聞き取りを含めて最終的に学校が判断した件数を計上している旨の説明があった。次いで、中島高校教育課長から、県立高等学校においては、生徒本人や保護者からの訴えのほか、アンケート調査など学校の取組や、学校以外の関係機関等からの情報などをきっかけとしていじめが発見されている旨の説明があった。

次いで、住吉委員から、認知件数はどこまでをいじめと認定するかで変わると思うが、一番重要なのは、いじめ問題に対して、教育委員会や学校がいかに対応するかということであると思われるため、各学校に対して、いじめ対策会議の機能を充実させるとともに、いじめ問題への取組や対応について注視を徹底するよう、指導をお願いしたい旨の要望があった。

これに対して、相原義務教育課長から、各学校において、いじめを軽微なものも含め積極的にいじめとしてしっかりと認知し、いじめ防止の基本方針や各種委員会等を機能させていくとともに、スクールカウンセラーの活用の拡充について検討していきたい旨の説明があった。

これに対して、住吉委員から、いじめ問題に対しては、担当者一人で抱えることのないように、学校全体で組織として対応していくという認識を持つように指導をお願いしたい旨の要望があった。

奥田委員長から、他の意見の有無を問い、これについては承認された。

## (2) その他

- ・平成27年9月定例県議会における教育委員会答弁要旨

城戸教育長から、9月定例県議会における教育委員会関連の代表質問、一般質問に対する以下の答弁要旨について説明があった。

(代表質問) 新たな科目「歴史総合」について、学力向上に向けた今後の取組について、少人数学級の取組の拡大について、放課後児童クラブと「学び道場」について、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置状況と今後の配置充実について、専科制の進捗状況と拡充について等

(一般質問) 「日本遺産」認定に向けた県の取組について、新たな整備計画

の策定と策定までの間のニーズの増加等への対応について、福岡高等学園及び北九州高等学園の職業専門コースの定員の増加や職業訓練に重点を置いた指導の充実等について、中途退学の防止について、学級の状況等を把握するための調査について等

次いで、宮本委員から、新たな科目「歴史総合」と従来の科目との関係について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、新学習指導要領が確定していないために決定ではないが、従来の「日本史A」と「世界史A」が統合して「歴史総合」になり、専門的な科目である「日本史B」はそのまま継続するのではないかと認識している旨の説明があった。

次いで、住吉委員から、特別支援学校の整備については、直方特別支援学校の設置で一旦区切りがついているが、社会のニーズも増加しているため、新たな中長期計画の策定に向けて検討してもらいたい旨の要望があった。また、福岡高等学園及び北九州高等学園における軽度知的障害の生徒の職業的自立が100%となるような学校づくりへの取組を充実させてほしい旨の要望があった。

次いで、奥田委員長から、「学級内の人間関係等が把握できる調査」の内容について質問があった。

これに対して、奥義務教育課主任指導主事から、学級の状況等を多面的に把握するための生活環境調査であり、いじめに関しての学校・学級の雰囲気や、いじめに対する学校全体の取組等について、子ども達のアンケートを基に分析していく調査であり、現在はアンケート結果を簡単に集約できる分析システムの開発を行っている旨の説明があった。

奥田委員長が閉会を宣言し、14時43分閉会した。